文化プログラムの実施に向けた文化庁の検討について

～2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化芸術立国の実現のために～

趣旨

「文化芸術立国」実現のために，2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019の機会を生かすとともに，それ以降も多様な文化芸術の活動や，文化財の保存・活用の着実な発展を目指し，組織委員会等と連携して，2016年秋から全国津々浦々で**文化プログラムを推進**

ロンドンを超える史上最大規模の文化プログラムの実施を目指す。

（参考）ロンドンオリンピック(2012)の文化プログラム
- ◆開催機関 2008年9月から2012年9月の4年間
- ◆イベント件数　177,717件
- ◆参加アーティスト数：40,464人
- ◆総参加者数：約4,340万人

訪日外国人2000万人に貢献

スケジュール（イメージ）

2015年　2016年　2019年　2020年　2030年

文化プログラムに向けた準備

●リオ大会
●スポーツ・文化・ワールド・フォーラム
●ラグビーワールドカップ2019

文化プログラムの実施

東京大会

→ 文化芸術立国実現へ

文化プログラムの取組を考えるに当たっての論点

1．全国津々浦々で実施する枠組みをどうするか。その際の文化庁の役割はどのようなものか。

2．これまで行われてきたイベント等も対象にし得るとした場合にどのような工夫が必要か。

3．2020年以降もレガシーが残るようにするためにどのような枠組みが望ましいか。

4．2020年に向けた文化イベント等の効果的な国内外への発信についてどのような枠組みが望ましいか。

5．国民の幅広い参加・参画を得るにはどのような工夫が必要か。

6．以下のような，様々な関係者とどのように連携していくか。
- ・企業・団体
- ・地方自治体，文化芸術団体，NPO等
- ・組織委員会，関係省庁，国立文化施設
- ・大学，学生
- ・メディア等の報道機関，海外の機関　等